

福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成29年2月号）

1～4号機は、燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

福島第二は、福島第一廃炉作業を安全かつ着実に進めていく一翼を担っています

■福島第一の作業服を洗濯しています

（平成24年8月～継続実施中）

- 当所では、福島第一廃炉作業で使用した構内作業服や下着類を洗濯*しています。
- 洗濯後は放射線測定器で検査を実施し、汚染がないことを確認しています。
- 一着ずつ、手作業で、種類やサイズ毎に分別した作業服は、再び福島第一廃炉作業の現場で活用されます。



*福島第一で使用した作業服のうち、構内作業服約7万着、チョッキ約3万着、下着約3万着（一か月あたり）を当所で洗濯しています。

■その他の主な取り組み*

* 実績を含む

○ 溶接型タンクの組み立て



○ 損傷した防波堤を補修するための消波ブロックの製造



○ 港湾内の放射性物質の流出を防ぐ海底土被覆材の製造

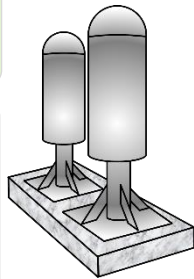


この他、溶接型タンクの仮置き、フランジ型タンク底板補修の確証試験、タンクパトロールや放射線測定といった人的支援等も行っています。

みなさまのご質問におこたえします

Q. 震災前の発電所周辺の放射線量はどの位だったの？

A. 震災前の発電所周辺のモニタリングポストの値は、1時間あたり0.04~0.05マイクロシーベルト程度でした。現在は0.17~0.41マイクロシーベルト程度です。



Q. 震災前から放射線はあったということですか？

A. はい。その通りです。放射線は、もともと自然界に存在しているもので、宇宙や大地、食物からも出ています。日本各地の放射線量（空間線量）は、原子力規制委員会のホームページでも確認できます。

放射線モニタリング情報

で 検索

回答したのは

福島第二原子力発電所
放射線安全グループマネージャー

田中 知信（大熊町出身）

- 第一種放射線取扱主任者
- 技術士（原子力・放射線）



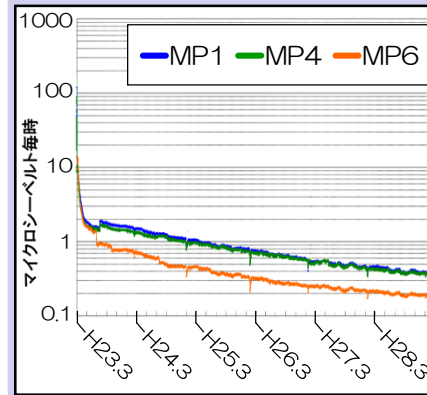
お問い合わせはこちらから
(平日)午前9時~午後5時 電話 0240-25-1353
福島第二原子力発電所 企画広報グループ

発電所敷地境界付近に設置している全7基のモニタリングポスト（MP）により、常時、空気中の放射線量の測定を行っています。

発電所周辺の空間線量率

震災から現在まで

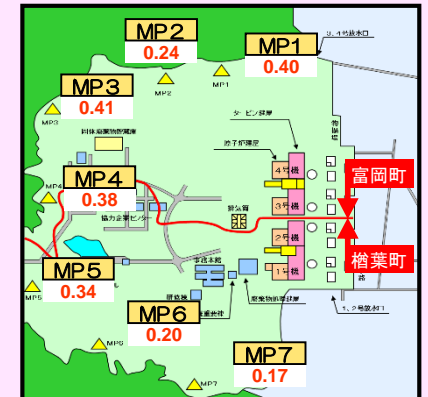
(平成23年3月16日~平成29年1月31日)



値は震災後、現在に至るまで低下傾向

現在の空間線量率

(平成29年2月20日午前6時)



単位は、マイクロシーベルト毎時

参考 原子力規制委員会 放射線モニタリング情報より
(平成29年2月20日 6時)

富岡町文化交流センター：0.230マイクロシーベルト毎時
(富岡町役場敷地内)

榎葉町役場：0.090マイクロシーベルト毎時

燃料の保管と冷却状況

- 燃料はすべて、1~4号機の使用済燃料プールで保管しています。
- プール水温度は上限の65℃に達しないよう、約30℃で管理し、24時間体制で常に監視しています。
- 冷却が停止した場合、65℃に達するまで5~7日と評価しています。

	1号機	2号機	3号機	4号機
保管している燃料の数	2,534体	2,482体	2,544体	2,516体
65℃までの到達時間 *2月1日現在の評価	124時間 (約5日)	185時間 (約7日)	184時間 (約7日)	191時間 (約7日)

使用済燃料プール水温度やモニタリングポストのこれまでの計測状況については、当発電所ホームページをご覧ください。

★ ホームページURL ★
<http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>

